

令和2年度 学校評価 学校関係者評価書

| | |
|-----|-----------|
| 学校名 | 三木市立三木中学校 |
|-----|-----------|

1 学校教育目標

「よりよく生きようとする意思や能力を培う生徒の育成」～学習に励む 心を磨く 体を鍛える～

2 本年度の重点目標

- (1) めざす学校像4項目 (①学ぶ喜びと楽しさがある学校②規律とやすらぎのある学校③生命と人権を大切にしている学校④安全で安心して過ごせる学校)の実現
- (2) めざす生徒像4項目 (①進んで学び自分の考えをしっかりと表現できる生徒②自他の生命や人権を大切にできる生徒③思いやりと奉仕の心をもつ生徒④心身ともに健康で粘り強い生徒)の育成
- (3) めざす教師像3項目 (①温かさや厳しさで生徒の個性や能力を育てる教師②高い専門性と実践的指導力を培う教師③確かな人権感覚を持ち生徒理解に努める教師)の追求

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

| 評価の観点 | 評価項目(取組内容) | 取組(達成)の状況 | 評価 | 改善の方策 |
|--------------|---|---|----|--|
| 学習指導 | ①臨時休校による未履修や遅れを解消するための授業時数の確保 ②思考力・判断力・表現力の育成に効果的な協同学習や言語活動の実施 ③自主学習ノートやプリント学習教材等を活用した学習習慣の充実 | ①長期休業期間の短縮や行事の精選で例年と同程度の授業時数を確保 ②新型コロナの感染状況に配慮しながら、班活動等を取り入れた授業を実施 ③臨時休校中にタブレットドリル学習を活用した家庭学習を推進 | B | ①長期の臨時休校に備えて、タブレット端末を活用したオンライン授業のシステムを構築する。 ②感染対策に配慮しながら、主体的・対話的で深い学びを実現する授業のあり方を模索していく。 ③1人1台のタブレット端末の配備を受け、日常的に家庭学習でも活用することを指導・促進する。 |
| 生徒指導 | ①指導委員会の定期開催や関係機関・職員との連携による早期対応 ②学活等での指導や講演会の開催による予防的生徒指導の充実 ③問題行動件数と長期欠席生徒数を昨年度より削減 | ①生活指導及び不登校対策委員会を毎週開催、不登校対策指導員とも連携 ②薬物乱用防止講演会を開催、ネットトラブル防止等の指導を学活で実施 ③昨年度と比較して問題行動は約3割減少、長期欠席生徒数は同程度 | B | ①個別チェックシートを活用して情報を早期に共有し、それぞれの状況に応じた指導に努める。 ②規範意識に係るアンケート調査で生徒指導上の潜在的な課題を把握し、開発的指導に活かす。 ③アシスト教室の活用や適応教室との連携など、スモールステップを積み上げながら削減を目指す。 |
| 道徳教育 人権教育 | ①道徳の時間数確保と他者や自己との「対話」のある道徳授業の推進 ②いじめや差別の未然防止に向けた人権教育の充実 ③体験活動や地域人材を活用した道徳性の育成 | ①授業時数は概ね確保、対話を通して他者を理解し考えを深める授業を推進 ②人権学習会の開催、新型コロナに係る差別防止の指導を学活等で実施 ③トライやると連携したボランティア活動や障がい者スポーツ体験講座を実施 | B | ①全教職員が指導にあたるローテーション道徳の充実を図り、実践的な授業力の向上に努める。 ②日頃の言動や規範意識に係るアンケート調査で人権上の潜在的な課題を把握し、指導に活かす。 ③地域の行事やボランティア活動等への参加を促進し、地域の一人としての自覚を高める。 |
| 特別活動 | ①生徒の主体性や自己有用感を高める行事、学級活動等の実施 ②主体的に進路を選択し、決定できる能力を育成する進路指導の実施 ③部活動運営方針に基づく部活動の適切な運営と指導の充実 | ①体育発表会や学年・部活動単位での舞台発表や作品展を開催 ②「キャリア・パスポート」の活用推進、高校教員による小学校・高校との連携 ③適切な運営に係るアンケート項目の達成率は、生徒・保護者とも80%以上 | B | ①コロナ禍での有意義な学校行事のあり方について、他校の実践も参考にしながら、検討していく。 ②社会との関わりを実感する体験活動を推進し、進路に関する情報を積極的に提供する。 ③自主性の伸長や、好ましい人間関係の育成を活動の主眼に置き、対話を重視した指導を行う。 |
| 特別支援教育 | ①特別支援教育コーディネータを中心とした組織的な支援体制の充実 ②「個別の教育支援計画」等を活用した指導の充実と異校種間の連携強化 ③授業のユニバーサルデザイン化に係る研修の実施や研修会への参加 | ①教職員間で頻繁に情報を共有し、個々の生徒の状況に応じた支援を実施 ②関係教職員の参観や「中高連携シート」の活用による小学校・高校との連携 ③特別支援教育の視点を取り入れた授業改善について研修会を実施 | B | ①校内特別支援教育委員会を定期的で開催し、PDCAサイクルによる取組の点検・改善を図る。 ②福祉、保健、医療等の機関との連携も強化し、切れ目のない一貫した支援を図る。 ③多様性を尊重した学級づくりや、支えあい認めあう人間関係の育成についての研修も深める。 |
| 安全管理 施設設備 | ①検温や手洗い、マスク着用等の徹底による新型コロナウイルス感染防止 ②教育活動の見直しや工夫による密閉・密集・密接状態の回避 ③校内の環境整備、施設・設備の整備や修繕を推進 | ①施設の定期的な消毒、チェックシートを用いた生徒の健康状況把握 ②放送による儀式的行事や全校朝会の実施、行事の人数制限や分散開催 ③北校舎外壁の修繕、カーテンの交換、PTAと連携した校地の環境整備 | A | ①感染防止のノウハウを、新型コロナだけでなく、インフルエンザ等の感染防止にも活かしていく。 ②今年度の取組を検証し、今後の感染状況に配慮しながら、臨機応変に対応していく。 ③学校の統合を念頭に置いて、市教委と連携しながら計画的に施設や設備の充実を進める。 |
| 教職員の育成 | ①年間10回以上の研究授業や外部講師による研修会の実施 ②管理職やベテラン教職員による若手教職員対象の研修の実施 ③生徒に寄り添い、生徒が心を開く教職員の育成 | ①研究授業を3回、DVD視聴や紙上等を交え研修会を7回実施 ②いじめ防止や教職員の心構えについての研修を実施 ③業間等の生徒見守り体制の徹底、カウンセリング研修の実施 | B | ①感染状況を見ながら、外部講師を招聘した研修会や研究授業の充実を図る。 ②関係機関や他校での研修会への積極的な参加を促し、指導力の向上に努める。 ③業務改善を進めて生徒に関わる時間を確保するとともに、生徒の内面理解に係る研修を行う。 |

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・保護者、生徒、教職員への学校評価アンケート、そして全教科、全領域での指導・観察に基づいた自己評価の方法は適切である。
・保護者の結果が、前年より達成率が上がっている項目が半数以上あり評価できる。
・コロナ禍の学校運営は、例年以上に困難であったと推測されるが、様々な工夫をしながら取り組んでいることが資料から判断できる。
・コロナ禍での行事の縮小、変更、中止など大変な状況であったことと思われる。その中で、できる事を考え実践できたことは大変よかった。来年度も引き続き、できる限り行事等で生徒・保護者が楽しめるような様々なパターンを準備してほしい。
・臨時休業中の遅れを取り戻すため、行事を選択したことは評価できる。しかし、遅れている生徒に対して、より一層の支援を期待したい。
・中学校は、思春期を伴い非常に難しい年齢である。しかし、生徒がしんどい中にも楽しみを見つけ、通える学校であってほしいと思う。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

| 学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価 |
|--|
| ・評価Bは適切である。 ・臨時休校が長引き、タイトなスケジュールの中、長期休業日の短縮、行事の精選などを図りながら、より生徒に分かりやすい授業に取り組んだこと、今後のコロナ感染症に備えた新しい学力保障を構築したことは評価できる。 ・今後、生徒に対して補習などの取り組みを増やしてほしい。 |
| ・評価Bは適切である。 ・問題行動が約3割も減少したことは、先生方の地道な努力と保護者、地域と連携した生徒指導の結果であり、評価できる。 ・目まぐるしく変化する社会、コロナ禍でのストレス等々の状況下で、長期欠席生徒を減少させるのは並々ならぬ苦労があるが、増加を食い止められているところを評価したい。 |
| ・評価Bは適切である。 ・アンケート結果から、生徒は高い達成率であると自己評価している。ローテーション道徳やコロナに係るいじめ、差別防止のための指導を含めた全領域での道徳・人権が浸透している結果であると思われる。 ・今後も、人権教育を学校の教育活動全体を通じて推進してほしい。 |
| ・評価Bは適切である。 ・あらゆる特別活動に対して、苦慮、心配り、工夫された1年であったことと思われる。保護者の評価や教職員の自己評価は厳しいが、生徒のアンケート結果が良かったことは評価できる。 ・学校の行事等、コロナ禍の中で計画など大変難しい判断を強いられたことと思うが、三木市以外の市や県の動向も参考に検討してほしい。 ・今年度の行事等の見直し、来年度に反映されることに期待したい。 |
| ・評価Bは適切である。 ・特別な支援を要する生徒は、年々増加しているように思われる。校内での組織体制の充実は無条件のこと、教職員が自己研鑽に励みつつ、小中はもとより、中高の連携も更に深め、そうした生徒たちがより良い学校生活を送れるような体制づくりをお願いしたい。 ・生徒、保護者への適切な支援ができるよう、関係機関とも密接に連携してもらいたい。 |
| ・評価Aは適切である。 ・これまで以上に心を砕かれた分野であったと思う。学校の統合に向けた受け入れ準備も着々と進められている。生徒たちが安心して学校生活を送れ、保護者が安心して子どもたちを送り出せる、そんな環境づくりを引き続きお願いしたい。 ・統合は、三木中生、星陽中生にとって有意義なものであってほしい。 |
| ・評価Bは適切である。 ・社会の変化とともに先生方に求められる能力、指導力の範囲が益々広がっているように思われる。そうしたニーズに応えるべく、日々の研鑽、修養に努めていただきたい。また、その為には、保護者や家庭が果たすべき責任を果たし、教職員が責務に専念できる環境づくりに協力しなければならぬと考える。 |

